

## 令和7年度 学校評価に係る報告書

学校番号	55	学校名	野津原小学校	
学校経営の重点	年間経営目標	自己評価	学校関係者評価	具体的な改善方策
「笑顔いっぱい宣言」をふり返り、相手意識を持つ児童を育成する	相手意識を持たせたと回答する児童:80%以上 (教職員評価)相手意識を持たせたと回答する児童:80%以上  ※相手意識 いやがることをしない、ふわふわ言葉を使う、いい所みつけ、など	相手意識を持たせたと回答する児童、同様に評価する教職員の割合から、目標達成と評価した。1学期は挨拶を意識させることで児童に相手意識を萌芽させた。2学期は学級と全校集会等で良い所見つけに注力し相手意識と自己肯定感を高められた。取組を継続し、3学期には相手のことを考えて行動する姿と優しい言葉使いを意識する児童が増えた。	挨拶や言葉づかいなど、学校での取組内容を家庭にも知らせてほしいとの要望があり、令和8年度はこの要望に応えていきたい。家庭にも学校の取組をお知らせすることで、家庭でも学校の取組に関心を寄せていただくとともに、同じ声かけをしていただくことにより、相手意識の向上が期待できる。	保護者回答の学校アンケートから、課題は、言葉づかい、整理整頓、家庭学習時間の確保と認識している。令和7年度は、相手意識として挨拶を取り上げたが、言葉づかいを取り上げて、改善を図りたい。
書くことと対話を重視した授業を行い、主体的に学ぶ児童を育成する	主体的に学んだと回答する児童:80%以上 (教職員評価)主体的に学んだ児童:80%以上  ※主体的に学ぶ:交流する、意見を発表する、質問する、次に学びたいことのふり返り、など	主体的に学んだ(自分の考えを書く、交流、ふり返り)と回答する児童、同様に評価する教職員の割合から、目標達成と評価した。校内研究により、書く力の向上取組、振り返り、交流の具体的好事例を、日常的な授業観察により、授業改善内容を、共有、実践し、書くことと対話を重視した授業力の向上と、主体的学びを実現できた。	学校運営協議会において、あのね帳について紹介いただいた。あのねで始まる日記を書くこと、書かれた日記については、保護者の方にもコメントを寄せていただくことで、学校と家庭の両方で書く力の向上が期待できる。	令和7年度は、校内研究で書く力を取り上げて取り組んできた。その結果、書く力については、確実に向上した。令和8年度は、書く力とともに、対話力の向上にも取り組む予定である。
体力向上を推進するなどの行動のきっかけを与え、行動できる児童を育成する	自ら行動できたと回答する児童:80%以上 (教職員評価)自ら行動できた児童:80%以上  ※自ら行動する:言われたこと以上のことをする、工夫・改善して行動する、など	自ら行動できたと回答する児童、同様に評価する教職員の割合から、目標達成と評価した。児童は役割や係を与えれば積極的に考えて行動する姿が、運動会を中心に観察されたことから、3学期も学校の中の役割や進級後の姿を意識させて、自ら考えて行動することを促した。その結果、低学年も含めて考えて行動する姿を確認できた。	家庭での仕事、手伝いを宿題にするなどすれば、自ら考えて行動することの意識も高まることが期待できる。	自ら考えて行動することを、具体的に何をどう評価するかを、年初に検討することで、目標の具体化を図りたい。

本市重点施策	重点目標	自己評価	学校関係者評価	具体的な改善方策
小中一貫教育の推進	見通しをもった小中一貫教育の計画立案と検証改善	年間5回の合同研修会を実施し、小中一貫教育の要の学び方マニュアルの実践につなげた。今年度から6年生に加えて5年生にも参加させた中学校体験入学は、小中一貫教育の象徴となり、中学校への興味関心を高めるとともに、中学進学の見通しを持つことにもつながった。	中学校への興味関心を高める取組を期待している。	年間5回の合同研修会については、同じ内容で回数を減らすことができそうなので、令和8年度は年間5回とするが、令和9年度以降の計画を具体的に見直す。小中一貫教育の要となる学び方マニュアルの利用方法について、小学校では、例えば、毎月振り返るなど、具体的な利活用方法を検討する。
いじめ・不登校への未然防止及びその対応	いつもと違う児童の把握	毎月、全教職員で児童情報を共有する会議を開催することで、児童理解を図り、トラブルを解決した。気になる児童への声かけと相談しやすい雰囲気づくりにより、児童が相談できる体制を確立した。	日常的な児童観察と声かけ、児童育成クラブや家庭との連携強化を期待している。	令和7年度に実施した全教職員による児童情報の共有は引き続き継続するが、最重要会議のひとつとして位置付け、欠席者が出ないように配慮するとともに、欠席者が出た場合は、情報を伝えるための議事メモの作成を検討する。
働き方改革の推進	校務の見える化と効率化	校務の見える化シートを踏まえて、個人面談によりどの業務量を削減するかを夏休みに協議した。業務量を物理的に減らす必要があることの理解が進み、働き方の意識が変わった。	児童の前に立つ先生は元気であってほしい。先生のワークライフバランスが重要であり、自ら考えて行動することを期待している。	働き方を改善する必要性を理解し、意識は確実に変わってきたが、持ち帰り仕事もあり、改善の余地が大きい。分掌等の負担を平準化するとともに、生成AIの利活用を促す研修を実施して、超過勤務時間の削減を図る。